

題 話 の

ま ち

市 政 短 信

ふるさと創生事業に

(仮称) 白根ふるさと館を構想

ふるさと創生事業(自ら考え自ら行う地域づくり事業)の構想がまとまりました。実施を予定する事業は「(仮称)白根ふるさと館」の建設です。

ふるさと創生事業は、地域の個性を生かした「まちづくり」を推進するため「市民一人ひとりが考え、知恵を出し合い事業を進める」ということから、昨年3月、市民からふるさと創生アイデアを募集。81作品の応募がありました。その後、審査委員会(市民代表など7人で構成)で検討され「フルーツ王国の建設」「白根市一周ふるさと巡りサイクリングロードの建設」「ふるさと園路の整備」「白根ふるさと館の建設」「ふるさと基金の創設」の5点のアイデアが入選作品として選ばれました。その5点の入選作品の中から、さらに検討を加えた結果「(仮称)白根ふるさと館」の建設を具体的に推進していくことになりました。

この「(仮称)白根ふるさと館」は、風を中心とした観光、産業、地域文化の拠点の役割を果たす施設として建設。本市の歴史、伝統、文化、産業の歩みなどを紹介し、観光の振興、地域の活性化を図り、ふるさとを再発見してもらおうというものです。この施設を拠点に、白根の個性と特色を生かした「まちづくり」を推進することが考えられています。

事業実施スケジュールは、平成2年度に住民参加による検討(調査)委員会を発足。3年度から建設に着手し、4年度の大風合戦ころまでには完成したいとしています。

この構想は、3月定例市議会に調査費が提案され、検討される予定です。

議会の動き

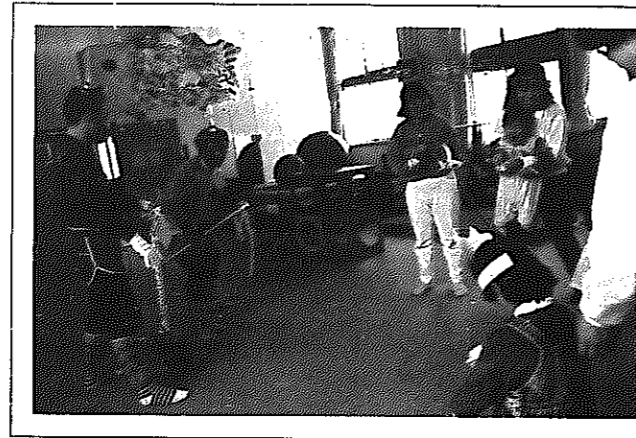
総務文教委員会が2月22日に開かれ、副委員長に藤崎守さんが互選されました。これは、松沢義夫さんの副委員長辞職によるものです。

豆つぶでの痛い歓迎
市連合青年団

節分を控えた二月一日、市連合青年団の青年たちが鬼にふんしつづくし園(身障児療育教室)を訪れました。

紙芝居を見ている子どもたちの前に、ウォーという声とともに現れた二匹の鬼。子どもたちは先生やお母さんと一っしょに「鬼は外!」と豆を投げつけます。鬼はほうほうの体で逃げ出しましたが、鬼が帰るやいなや大粒の涙を流す子どもも…。

連合青年団では、翌二日も二班に分かれて市内十一か所の保育園を回り、子どもたちから豆つぶでの痛い歓迎を受けていました。

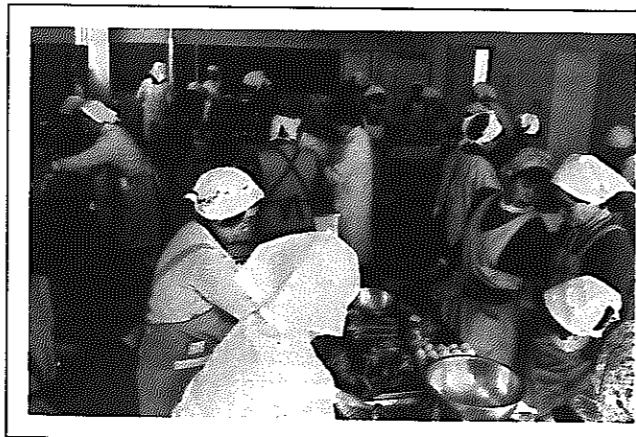


家庭でも作ってみたい

米を使った料理講習会

毎日食べているお米について勉強し、日本型の食生活を考えようとして二月七日、保健センターで「米を使った料理講習会」が開かれました。

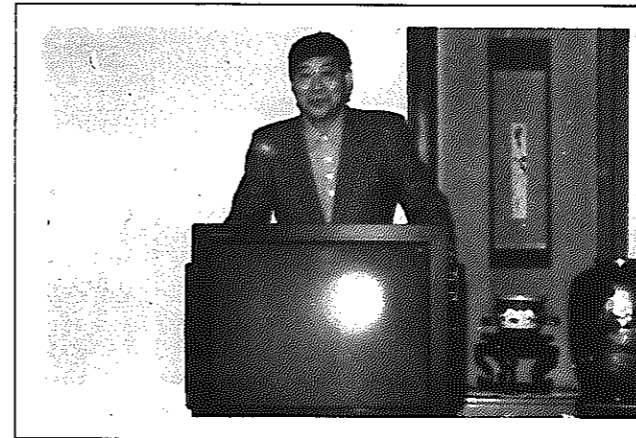
この講習会は、栄養士会、保健課などが開いたもので、町部第1・2保健会から約三十人の奥さんが参加。米の栄養とおかずとのバランスなどを勉強した後、調理実習の開始。メニューはライスピザ、中華風ちまき、青じそごはんなど盛りだくさん。料理には手慣れた奥さんたち、作り方の手引きに添って次々と出来上がっていきます。「ぜひ家庭でも作ってみたい」とたいへん好評でした。



嫁いでも親孝行

浅見さんお年玉
賞状で一等当選

市内からお年玉年賀状の一等当選が出ました。この幸運をつかんだ人は、浅見栄五郎さん(葵町、六十二歳)。一月二十九日には白根郵便局で賞品(AVテレビ)の授与が行われました。当選の年賀状は、見附市に嫁いでいる長女の家から差し出されたもの。「発表の翌日、女房と息子が一等が当たったというので、びっくりしました」と浅見さん。周りでは「嫁いでも親孝行」と話題になっています。一等の当選確率は五十万通に一通。渡辺郵便局長は「引き換えは七月十六日まで。皆さん、もう一回点検してみてください」と話しています。



竹の割れる音にびっくり

白根小
雪まつり

二月二日、白根小学校で、毎年恒例の「雪まつり」が行われました。この雪まつりは、児童たち自身が催しを考え開催しているもので、児童全員が参加して、さいの神や雪合戦、かるた大会などで大いに楽しもうというもの。

さいの神は、グラウンドに二組を用意。子どもたちは、書き初めを燃やしたり、するめを焼いたり大喜び。竹がパンパンと大きな音で割れるたびに、びっくりして後ずさり。かぜで休んでいる児童も多く、子どもたちは、かぜを吹き飛ばせとばかりに元気いっぱいでした。

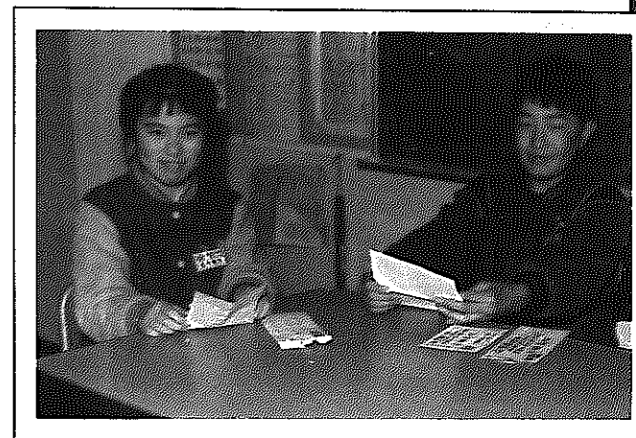


国 船の返事届く

山形県から
大連の二人に

昨年十月三日に、市制三十周年を記念して飛ばした手紙付きの風船が山形県まで届き、拾った人から返事が来ていることが分かりました。返事は風船を飛ばした直後の十月七日と二十八日に、大通小六年の加藤祐二君と吉川桂子さんあてに届きました。返事をくれた人は菅野庄右衛門さんと石沢栄好さんで、手紙には「市制三十周年おめでとう。がんばってください」と、お祝いと励ましの言葉が書かれていました。

返事をもらった二人は「まさか山形県から来るとは」とびっくり。友達からうらやましがられています。



無 病息災を願って

大通団地
さいの神

一月十五日、一年間の無病息災を祈って大通団地でさいの神が行われました。団地内外から約三百人が集まり、用意された二百本以上のスルメはあっという間になくなっていました。

今年の年男、年女が点火すると、豆がらが勢いよく燃え上がります。青竹のはじける音と子どもたちの歓声が響きわたり、さいの神は最高潮。ほおを赤く染めながら燃え上がる炎にスルメをかざします。子どもたちにはお菓子のプレゼントもあり、実行委員会が用意した、わたあめや甘酒には長い列ができていました。

